
blue&blue

美咲

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

blue :blue

【Zマーク】

Z6130Z

【作者名】

美咲

【あらすじ】

幸せなんかいらない。恋愛なんかいらない。そして自分自身も。20歳の私は携帯を手に夜を彷徨う。作者の経験を元にしたフィクションです。

桜がヒラヒラ舞い落ちる春。

そんな誰もが笑顔になるこの季節に、私は失恋した。

終わりの気配はずっと感じていたけど、私はそれを認めたくなくて必死に立て直そうと努力した。

彼も私のその気持ちは何となく感じて結論を先延ばしにしていたのだろう。

けれど人の気持ちは簡単に変わるものではない。

付き合っているとは名ばかりの会わない日々が数ヶ月続いた上での結末だった。

その日は久しぶりに雄介が私のアパートに泊まりに来た。

少しこじれていたけど、私と会わない間に彼も私への気持ちを見直して、これからまた一人で楽しくやつていけるかもしれないと私は無理にプラス思考で考えた。

本来マイナス思考な性格だから、それでも考えないと不安でいっぱいだつたのだ。

部屋を掃除して、料理を振舞つて、同じ布団で横になつて…。

なるべく楽しく過ごせるよう笑顔でいようとこう私の作戦はなかなか効果があつたように思う。

最近頻繁にしている小さなケンカも起こらなかつたし、ラブラブカップルのように部屋の空気は穏やかだ。

また仲良くやつていけるかもしない、と私は朝田の中で隣りに眠る彼を見ながら安堵のため息をついた。

大体私の気性が荒いからいけないんだ。

些細なことでも気になつて責め立ててしまつたり、彼のひと言で我らぬ妄想をして怒つたり。

男は癒し系の女に弱いって雑誌にも書いてあつたじゃないか。彼が安らげるようなそんな女でいよつ。そつすれば…。

「おはよう、早いね」

彼が目を覚まし、寝起きのぐぐもつた声で言った。

「うそ。今日どうしても大学に書類届けなきゃいけなくて。出したらすぐ帰るし雄介は寝てていいよ」

「いや、俺も起きなきや。今日は予定があるか？」

何氣ない彼の言葉に胸の辺りがぐりっとした。

予定つて誰どひじで何をするのと咄嗟に言つたくなつてグッヒーられる。

つこわしき癒し系にならうと思つたのに、そんなウザいこと言つたらダメだとオジのところに思つて留まつた。

適当な朝食を済ませ準備をし、玄関まで行つたところで雄介が「忘れ物」と言つて一畳部屋に戻るのを見ながら、その長身をぼんやり眺めた。

高い背に整つた顔立ちをした彼は街を歩けば女子高生なんかにハーフマークの田を向けられるくらいのイケメンだ。

対して私はキツい顔立ちが特徴ではあるが、平凡そのものな容姿をしている。

彼から好きだと言われて付き合い始めたから強気になつていただけで、ワガママばかり言わずに彼に好かれるよう努力するべきかななどとじょうじょうい事を考える。

「いめん、おまたせ」

戻ってきた雄介に、うつんと首を横に振りながら鍵を閉めて、手を振つてそれぞれ違う道を歩き出した。

私は大学へ。彼は駅へ。

その時は気付いていなかつたが、それが私たちの最後だった。

そしてそれに気付いたのはほんの数時間後のことだった。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6130z/>

blue&blue

2011年12月20日17時53分発行